

# 4K・8K放送の動向と 伝送機器に関する当社の取り組み

2016年3月

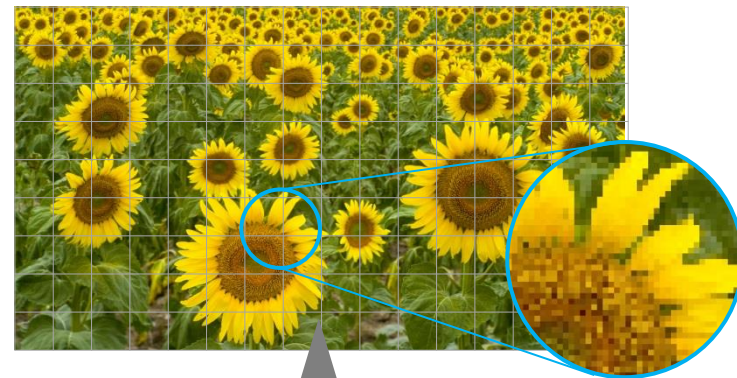
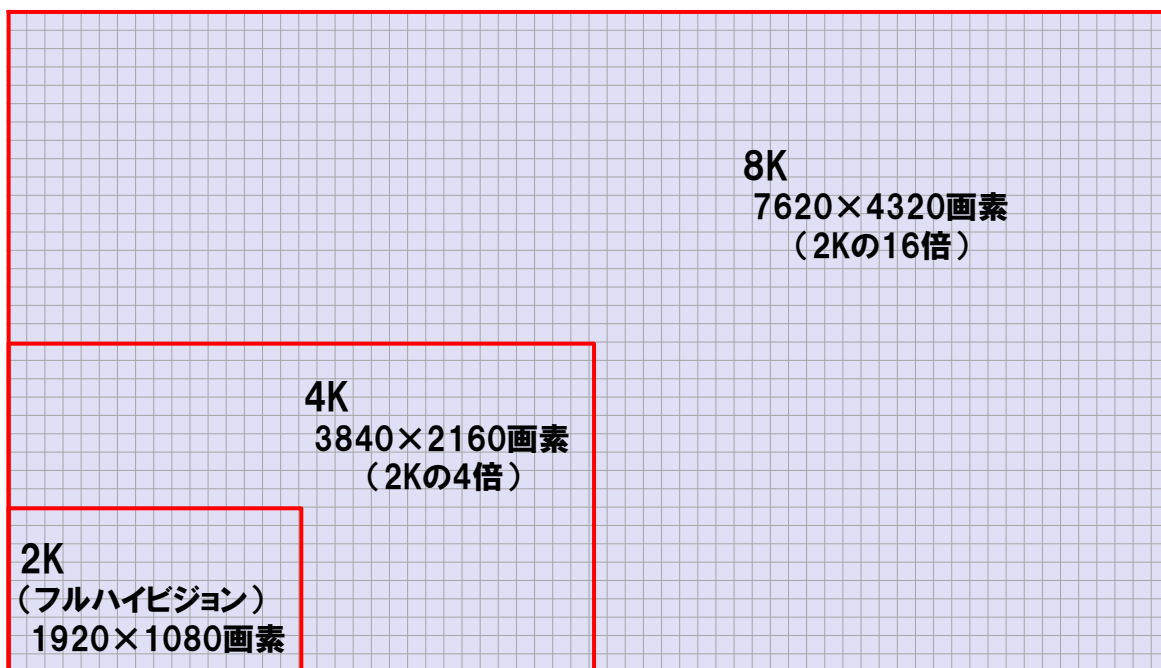
パナソニック株式会社  
エコソリューションズ社

1. **4K・8K放送の特徴(現在のテレビ放送(フルハイビジョン(2K))との違い)**
2. **現在のテレビ放送の状況**
3. **現在のテレビ放送(アンテナ視聴時)の配線**
4. **4K・8K放送の動向:推進のためのロードマップ(総務省)**
5. **4K・8K放送受信に必要な機器**
6. **当社の4K・8K放送対応(3224MHz対応)商品の予定**

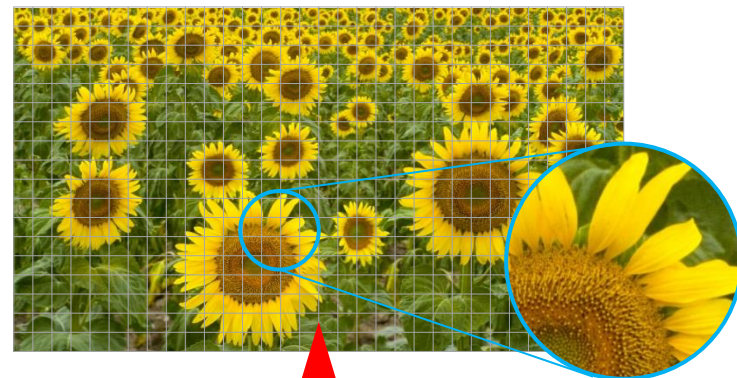
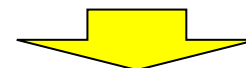
# 1. 4K・8K放送の特徴(現在のテレビ放送(フルハイビジョン(2K))と違い)

テレビは、大画面になるほど1画素あたりの面積が大きくなるので、画素の粗さが目立つという課題がありました。  
4Kテレビなら、フルハイビジョンの4倍、8Kテレビならフルハイビジョンの16倍の画素数でこの課題を解決。  
大画面で見ても、画素の粗さが気になりません。

現在の放送	水平方向×垂直方向	全画素数
フルハイビジョン(2K)	1,920(2K)×1,080画素	207万画素
4K放送	3,840(4K)×2,160画素	829万画素
8K放送	7,680(8K)×4,320画素	3,318万画素

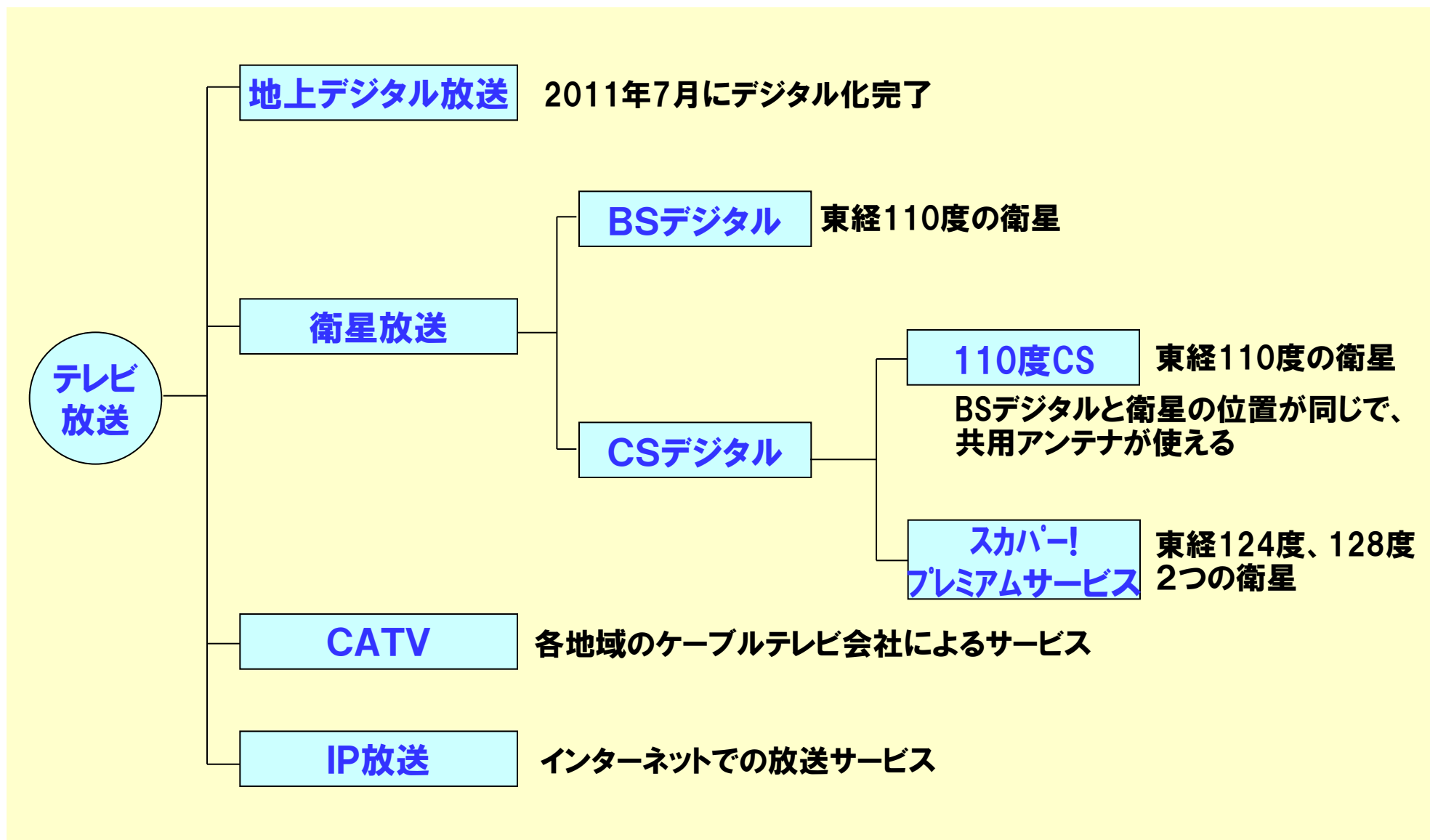


フルハイビジョンなら  
約207万画素

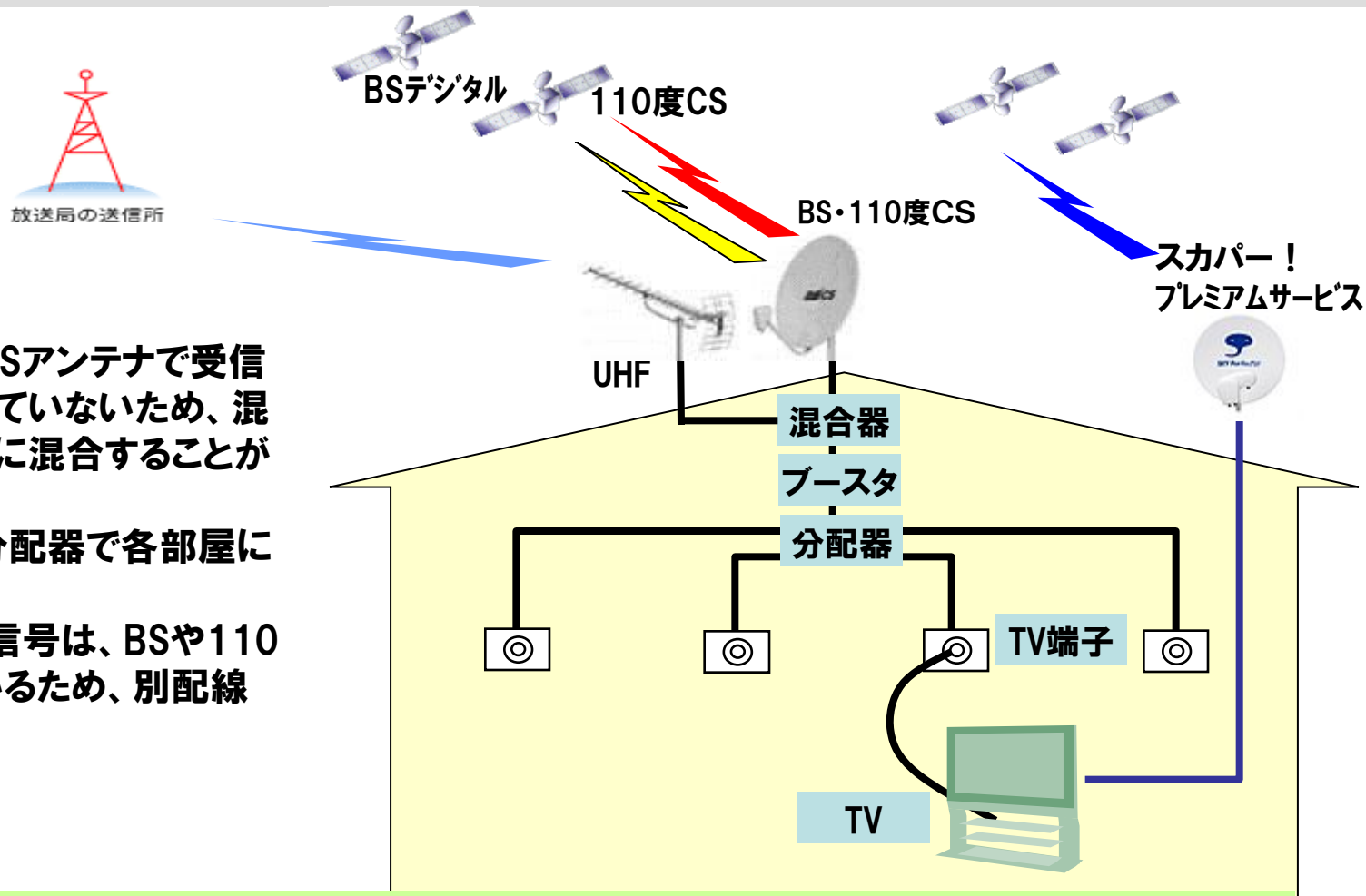


4Kなら約829万画素、  
8Kなら約3,318万画素で、  
フルハイビジョンのそれぞれ4倍、16倍、  
大画面でもくっきりきれい

## 2. 現在のテレビ放送の状況



### 3. 現在のテレビ放送(アンテナ視聴時)の配線

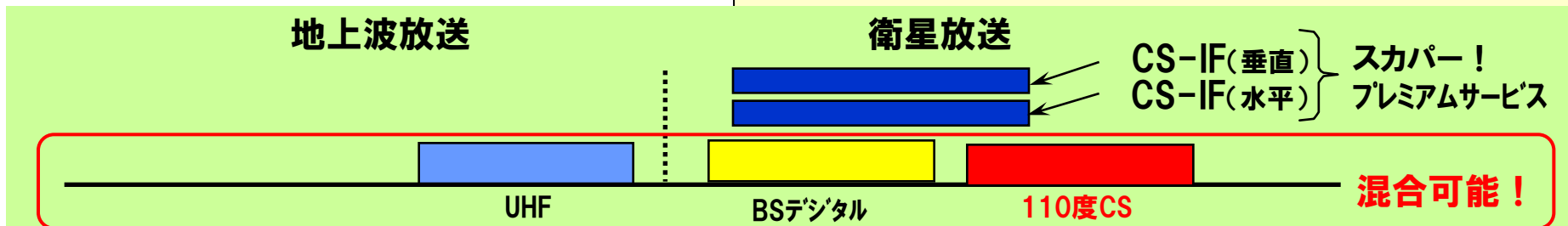


UHFアンテナとBS・110度CSアンテナで受信した信号は周波数が重なっていないため、混合器で1本の同軸ケーブルに混合することができます。

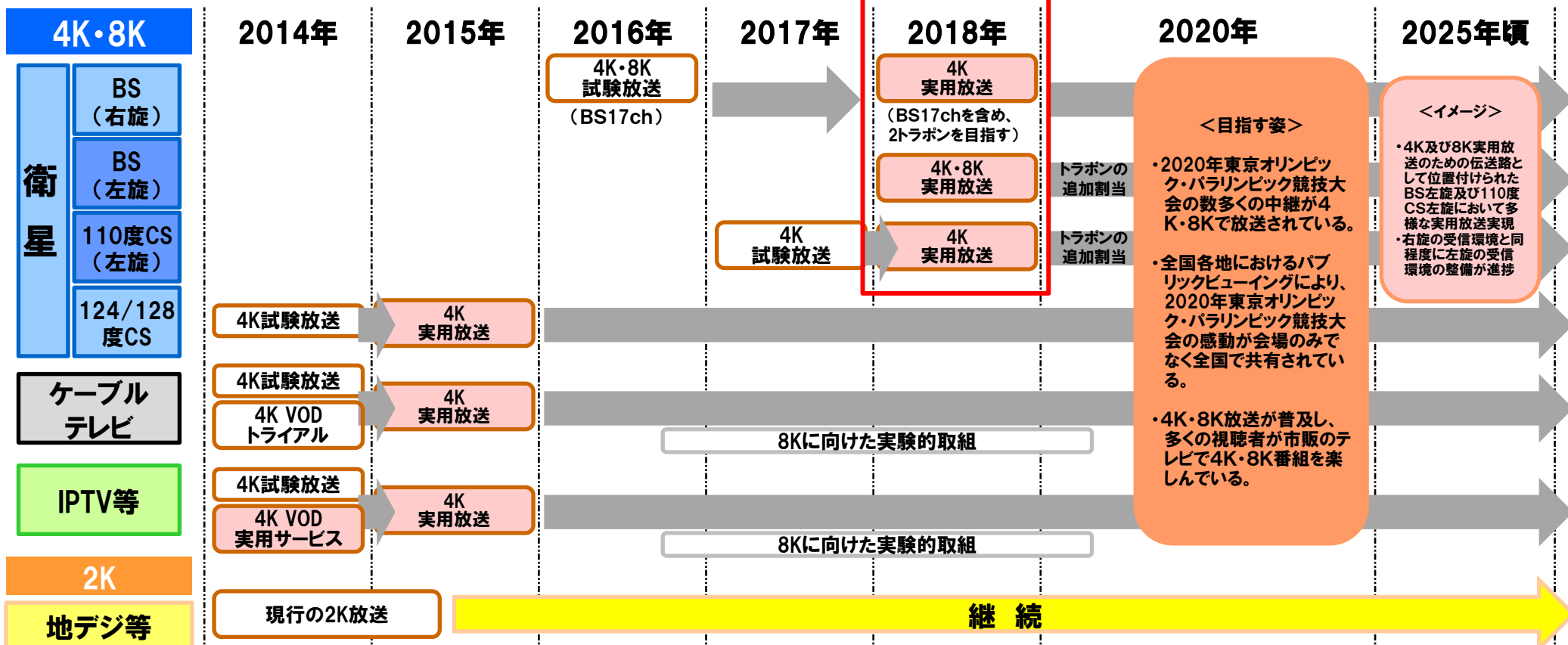
その後ブースタで増幅し、分配器で各部屋に分配配線します。

スカパー！プレミアムサービスの信号は、BSや110度CSと周波数が重なっているため、別配線になります。

#### ●周波数帯域



# 4. 4K・8K放送の動向：推進のためのロードマップ(総務省)

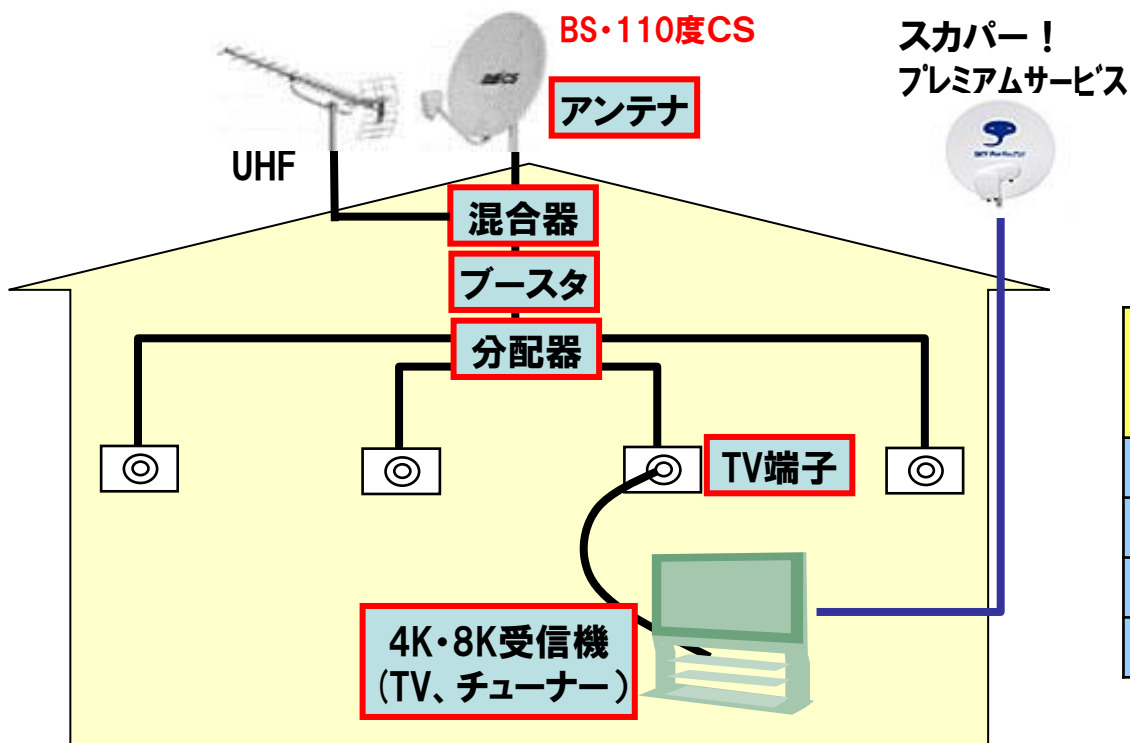
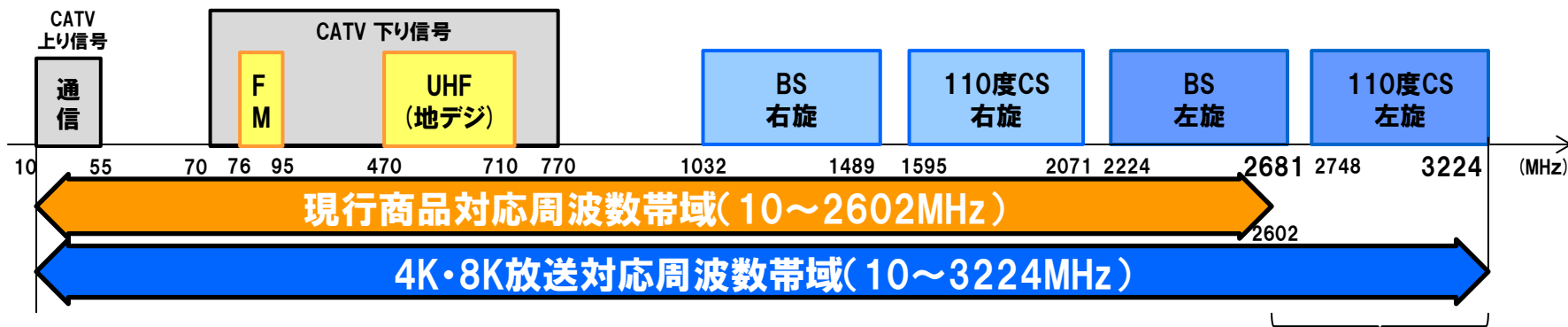


引用：総務省 4K・8Kロードマップに関するフォローアップ会合(連絡会)資料(2015年12月25日)を基に作成

**2018年から、BS・110度CS でも4K(・8K)実用放送が開始されます。**

# 5. 4K・8K放送を視聴するために必要な機器

## 伝送周波数帯域の違い



現行商品は、BS左旋の一部と110度CS左旋に対応していません。

**一部、対応機器に交換が必要です。**

放送	4K・8K受信機 (TV、チューナー)	アンテナ	伝送機器 (分配器、TV端子など)
BS 右旋	必要	不要	不要
BS 左旋	必要	必要	必要 ※1
110度CS 左旋	必要	必要	必要
124度/128度CS	必要	不要	不要

※1 現行商品は2602MHzまで対応していますが、BS左旋の上限が2681MHzのため、一部のチャンネルが映らない可能性があります。

**現在、各機関(BL、JCTEA他)で3224MHz におけるテレビ受信システムを検証しています。その検証結果を経て2016年度に機器並びにシステムの標準化が確立されます。**

**当社はその標準規格に沿った伝送機器(TV端子、分配器など)を2016年度から順次発売し、2018年のBS・110度CSでの4K・8K実用放送に対応する予定です。**